
緋弾のアリア イ・ウーの時の番人

sarutobi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾のアリア イ・ウーの時の番人

【Nコード】

N6627Z

【作者名】

sarutobi

【あらすじ】

緋弾のアリアの二次創作ってイ・ウー側に主人公いることないよなと思い衝動書きしました。

元大学生が『Black cat』の時の番人の能力をもって転生して 理子と出会いイ・ウーに入るそんな話

初投稿でしかも話自体かくの人生初めてなのでお手柔らかにお願いします。

1話（前書き）

駄文です。

ところで皆さんどうやって主人公の名前とか決めてるんですかね？

1話

「・・・んっ、・・・あれ、とどここ」

辺りを見わたすとそこは天井も壁もない真っ白な空間

・・・・・・と美人なお姉さんが土下座していた。

「えゝ　なにこの状況・・・」

「ごめんなさい!!」

目覚めていきなりいきなりそんなことを言われても反応に困るんだが・・・

「えっと・・・なにが？」

「え、えつと・・・あの・・・私がちょっと寝てたら・・・私の、よ、よだれで・・・名簿が・・・」

まあ話を聞いたところによると、この美人のお姉さんは神様で、なんか俺達人間を管理してる名簿？

に書いてあった俺の名前がよだれで消えちゃって、そのせいで俺はここにいららしい。

俺弱っ！！　よだれってなんだよ・・・よだれって・・・

「んで、俺はこれからどうするんですか？」

「あれ、怒ってないんですか？」

「まあ、怒ってもなにもかわらないですし。」

それに元の世界にあんま未練ないしなあー

したいこと無いのにとりあえず大学いって無駄な時間すごしてただけだし・・・

「そうですか・・・ありがとうございます。

それで、貴方にはこれから転生してもらいます。」

「えっ！転生ってあの転生ですか！？
元の世界に戻るんですか！？」

「いえ、申し訳ありませんが・・・それはできません。」

「貴方が転生するのは平行世界、いわゆる貴方の世界でいうところの漫画やアニメの世界になります。
といっても私は位の低い神で、任されている世界が一つしかないの
で転生する世界はきまつてるんですけど・・・」

「はあ・・・それって転生しないとかってありなんですか？」

「いえ、それはダメですね（キツパリ）。
そうしないと私が上司に怒られるんで。」

「こいつ・・・反省する気あるのか？」

「そうですか・・・
で、どの世界になるんですか？」

「はい『緋弾のアリア』という世界になります。」

いや、どこだよそれ
はあゝせっかく転生するんだったら自分が知ってる世界がよかった
な・・・

「『緋弾のアリア』？ってどういう世界なんですか？」

「まあ 簡単にいえば、武偵という人達が銃とか刀とかでドンパチ
する世界ですね。あつ、あと超能力とかも。」

オイッ！！それって即死じゃねーか！！

こっちはだだの大学生だぞ！！

しかも超能力ってなんだ おかしいだろ！！

「それは流石に・・・俺には厳しいんじゃない・・・」

「あつ、それは大丈夫です。生き残れるように転生する前に貴方の
願いをいくつか叶えることになってますから」

「あつ、でも余りにも世界観壊したり、凶悪すぎるのはだめですよ。」

ふむ・・・それならなんとか生き残れるか

「じゃあ、『Black cat』の時の番人の全員の身体能力と特技、あと武器ってできますか？勿論トレインの能力はレールガンつきで。」

「はい、できますけど・・・それだけですか？」

それだけって・・・俺の中では十分チートな能力を選んだつもりだったんだが・・・どんだけ危険な世界なんだよ・・・

そのあと俺が追加で頼んだものは武器作成の能力と、大量のオリハルコン、武器などを気軽運べる能力それと不老（不死じゃない）だった。

「わかりました。それでは、すぐに転生できますけどどうしますか。」

「えっ、もうできるんですか！？
じゃあお願いします。」

すると、目の前に現れた真っ黒な歪んだ空間から10mはあろうかというワニが大きな口をあけながら出てきた

あー・・・やっぱりこれってあれだよね・・・

「え、えつと・・・これは？」

「ワニ型転生機テンテンくんです！口の中に入れば転生完了です。
今回はいろいろご迷惑をおかけしてすみませんでした。では、中
にお入りください。」

やっぱりか・・・てゆうか テンテンくんて・・・まったく『く
ん』で顔してないんだが・・・

うわっ！！こっちくんな！こないてください！こないでくれるとう
れs・・・ギヤアアアアアーーーーー

そうして、俺の第二の人生が始まった

B A D E N D

「んっ・・・どこだっこ・・・」

辺りを見渡すと、今度は森の中だった。それとあと置き手紙が一枚。とりあえず俺はその手紙を手にとった。

『この手紙を見てるってことは無事転生できたんですね。実はあの転生機5%くらいの確率で失敗して、時空の狭間に飛ばしてとじこめちゃうんですよね！。』

まあそれはおいといて、今貴方のいる場所は私にもわかりません。転生場所はランダムですから。本当は転生っていったら赤ちゃんから始まるというのが普通なのですが、今回はこちらの不手際でしたのでサービスで元の体のままにしておきました。

武器に関しては気軽に持ち運びたいということでしたので、お金と生活必需品とともに貴方の影の中に閉まっておきました。まあつまり影を使う超能力者ってところですね！。

説明は以上です。では第二の人生をお楽しみください。』

5%って結構な確率じゃねえーか。失敗したらどうするつもりだったんだ・・・？

まあ成功したからいいけど。

それと武器か・・・俺の影の中にあるらしいけど・・・とりあえず影の中に手を入れてみるか・・・

うおっ！！なんだこれ！にゆるにゆるしてて気持ちわる！！
しかも底がどれだけあるか分からないくせに、意識したものを自由に取り出せるし・・・

はあー・・・まじで漫画やアニメの世界なんだなこころ。

そんなこんなで一週間たった。

えっ！飛ばしすぎだっけ？しかたねえだろ、一週間いろんな能力確認したり、影の中確認したり地味なことしかしてねーんだから。作者の技量なめんな！

てか、時の番人の力がハンパない。普通に銃弾で開けた穴に他の弾通せたり、自分の体ほどあるバズーカを軽々持ち上げたり、セフィアの滅界とかヤバかった。まじで仏像できたんだけど・・・まあ次の日筋肉痛で死んだけど・・・

あとなんか性格が微妙に変わってた。・・・戦闘狂ぽく・・・なんか自分の力を試してみたくてしょうがない。

あつれー？前世では喧嘩もできないチキン野郎だったんだけどな・・・
・ クラントとバルドルの能力のせいかなと勝手に構想。

まあそんなこんなで一週間たったわけだが・・・

今俺の目の前にはボロボロで気絶してる金髪少女がいる。

どうしたものか・・・マジで、ほんとに・・・

G
o
t
o
f
o
r
t
h
e
N
E
X
T

1 話（後書き）

読んでくださってありがとうございます。

設定（前書き）

作者はブラック キャットは漫画しか読んでないので この作品は
アニメにでてきたナンバーズの武器はできません。

設定

名前 黒川 タ（くろかわゆう）

身長 178cm

体重 64kg

外見はぶつちやけ黒眼になったトレイン。普段の装備は、装飾銃『ハーデイス』と振動ナイフ『マルス』を腰に装備している。必要に応じて影から武器を取り出す。身体能力能力に関して言えばHSSより上。

でも思考能力は劣る。

影に関しては物しかしきまうことができず、超能力としてのレベルが低い。ため常時能力を使っているても大丈夫という設定。

『特技』

変装

No.？のシャオリーの特技 セイレーンを使うことで顔だけでなく全身変装可能

『武器』

No.？クライスト

形状：剣

ナンバーズのリーダー、セフィリアが使用

No. ? グングニル

形状：槍

ナンバーズの副リーダー、ベルゼーが使用

No. ? マルス

形状：ナイフ

戦闘狂のクランツが使用。

柄についたボタンを押すことで刃が超振動し切れ味が格段に上がる

No. ? デイオスクロイ

形状：トンファー

ナンバーズ奇襲暗殺チームケルベロスのメンバーであるナイザーが使用。

No. ? エクセリオン

形状：鋼線仕込みグローブ

ナンバーズ奇襲暗殺チームケルベロスのメンバーであるジェノスが使用。

No. ? ヘイムダル

形状：鎖付き鉄球

クランツ共々戦闘狂と言われるバルドルが使用。

鉄球に四つのブースターが装備しており、手元のスイッチを押すことで自由に操作することができる。

No. ? セイレーン

形状：羽衣

魔術師の異名を持つシャオリーが使用。
戦闘のみならず変装にも使用される等、オリハルコンシリーズの中で一番便利な武器。

No.??ウルスラグナ

形状：バズーカ

ケルベロスのメンバー、ベルーガが使用。
三発しか装弾できない。
弾切れ後はハンマーとして使用できる。

No.??ハーデイス

形状：装飾銃

主人公トレインが使用する。
装弾数六発のリボルバー式

『技』

レールガン
電磁銃

ナノマシンによって進化した細胞の細胞放電現象によって銃弾を超高速で発射する。でも1日4発限定。あと使つと腹がへる。

ブラッククロウ
黒爪

接近戦の技。ハーデイスでの高速の打撃。

ブラッククロス
黒十字

黒爪の攻撃を交差させて繰り出す技。

桜舞 おうぶ

達人でも会得するのに10年はかかると言われる無音移動術。花びらが舞うような動きで敵を翻弄する。

雷霆 らいてい

すっげー突き

滅界 めっかい

高速で突きを放つことにより、突きの壁をつくり食らった者は痛みも苦しみも感じず塵と化してしまう。でも反動が激しく次の日は筋肉痛でうごけない。

設定（後書き）

金一や理子が本来いつい・ウー入りしたのか分からなくて困ってます。
知っている人がいたら教えてください。

2 話（前書き）

理子と言葉が通じるのはご都合主義です。

2話

side ???

「ハアハアツ・ハア・・・」

私は森の中を走っていた三日三晩ずっと、アイツから逃れるために・
・
こんなところでまたアイツに捕まるわけにはいかない・
まずは逃げなきゃ・そして力をつけよう・アイツを倒す
ために・あそこに行けば力をつけれるはず・こんな・
落ちこぼれのわたしでも・

「あつ」 ドサツ

転んだことによつて体中に衝撃がはしる。

それでも私はすぐに立ち上がるとする・でも体が思うように動かない・

頭を強く打ったからだろうか、それとも 疲れがたまつてたからだろうか・視界がどんどん暗くなってくる・私・は・
まだ・

立ち止まるわけにはいかないのに・

s i d e o u t

s i d e 黒川 タ

「おい、だいじょーぶか？」

「・・・・・・・・」

「返事がない、ただの屍のようだ・・・」

「・・・・・・・・」

「・・・・・・・・」

「やめよう、しゃれにならん・・・」

「とりあえず包帯でも巻いとくか・・・」

そう言って俺は袖口にできた自分影の中に手を突っ込んで消毒液と包帯をとりだす。

ふう・・・まだ影の中はなれないな。まるで田んぼの中に手を入れてるみたいだ・・・昔ばあちゃんのところで行ったのが懐かしいぜ

「それにしても、こいつガリガリだな・・・服もボロボロだし・・・」

それだけじゃない　体もボロボロ、　体中切り傷やあざだらけだ

まるで・・・誰かから虐待でもうけたみたいにな・・・

「まっ、俺が今考えてもしょうがないか。
これ終わったらとりあえず近くの町につれていってみるか・・・」

その後、応急措置を終えた俺は少女を抱っこして町へと向かって歩き出した。

「迷った・・・」

どうも黒川 夕です。

あれから1日たちました。

現在迷子です。

幼女もまだ目を覚ましません。

・・・どうしたものか

まあ転生してから一週間ろくに周囲を探索せず、武器いじったり変装の練習ばかりして野宿してたから当然っちゃ当然なんだけど・・・

「んっ？」

突然抱っこしてる両腕にかすかな揺れをかんじた。

おっ、目覚ますみたいだな。

「ん・・・。あれ・・・こは・・・。」

「おはようさん、よく眠れたか？」

「っ・・・」 ゴッ

「いてっ!？」

コイツいきなり顎殴ってきやがった・・・

「なにすんだ テメー!!」

「うるさいっ!! お前誰だ!! ブラドの手下か!？」

幼女は殴ると同時に俺の手から抜け出し　そして、いきなりわけからんことを言い出した。

ブラドってだれだよ・・・

心の力つかってグラビドンでも放つのか？

いや？微妙にちがうか？

まあいいや・・・

「いや 誰だよそいつ・・・」

「だまれっ！！ 私はだまされないぞっ！！・・・いつっ・・・」

「あーあーあーせっかく少し傷がふさがってきたのに、そんな叫んだら傷が開いて余計ひどくなるぞ。

しょーがねーなー、とりあえず町いくぞ。

ブラドってやつの話もあんなところで傷だらけだった理由も一度町にいったからだ。それに腹も減ってたんだろ？」

そう言っただけは歩き出す。いまだに警戒心MAXだが一応ついて来るので、どうやら町までいくのは賛成らしい。

はあ・・・面倒なことになりそうだなー

そう思いつつほっとけないんだけど・・・

おいっ！！

今ロリコンって思った奴だれだ！！出て来い！！

あれから二時間ほどたちました。

俺達はいまだ森の中にいます。

「お前、もしかして・・・」

「いっつなー いわないでくれー」

子供みたいに喚くおれに幼女の一言が突き刺さる。

「道も知らないくせしてあんなセリフはいたのか・・・？」

グアアアアアアア いわれたー

恥ずかしすぎるううー

すっかり迷子なこと忘れてました。 てへっ

あれから更に1日だつてなんとか町を見つけて現在飯屋にいます。
(ちなみに今俺達がいる国はルーマニアらしい)

そして目の前にはガツガツ気品のかけらも感じさせないで理子(迷
つてる時に聞いた。峰 理子って言つらしい)が飯をくっていた・
・

・・・両手にスプーン・・・髪に二本のフォークを持って・・・

ゴシゴシ(目をこする音)
ぐにいゝ(ほっぺをつねる音)

・・・うん夢じゃない

あるえゝ？俺の常識がまちがっててるのか？確か人って髪を手みたい
にクネクネ動かすこと出来ないとおもったんだが・・・これは
スルーしたほうがいいのか？・・・うん・・・これはスルー
しよう・・・

「んで、なんであんな所でボロボロでたおれてたんだ？」

髪の毛のことはスルーすることを誓った俺が話をきりだすと、ガツガツくっつけていた手と髪？を止めて、真剣な顔になり語り始めた。

「逃げてきたんだ・・・アイツから・・・」

「逃げてきた？」

「・・・うん」

話を聞くと驚くことに理子は怪盗リユパンの曾孫で幼い頃に両親を亡くしてしまいった。そこに目をつけたブラドっていう吸血鬼（吸血鬼って実在すんのかよ！と思ったが聞ける雰囲気じゃなかったから聞かなかった）がリユパン家の力を求めて無理やり養子にしたらしい。

でも、その才能が全く開花せず痺れを切らしたブラドは理子を五世を産む道具として扱うようになったらしい。

その後は監禁され毎日のように暴力をふるわれ人間としてあつかわれなかったそうだ・・・

正直言つて俺には初めて全く理解できなかった。元の世界にもそういうことがあるのはしってたけど、俺には全く関係のない世界だったから・・・

だから俺は

「そうか」

と一言だけいった。

そついうことしかできなかった・・・

ほんの一週間前までのんびり大学生活をおくっていた俺には、励ます言葉も出てこなかったし、同情する資格もないとおもったから・・・。

s i d e 理子

私はなぜか自分のことを目の前にいる男に包み隠さず話していた。

そんな事する必要まったくないのに・・・

気づいたらリュパン家が両親が死んだあと没落したことや、ブラドのことなど、いろんなことを吐き出していた。

最初はコイツもリュパン家を話を聞いたら目の色変えるだろうと思っていたら、全然そんなことなかった。

私の話を聞き終わると「そうか」と一言だけいった。

一見冷たいように見えるけど、私はその一言が嬉しかった。

今まで会ってきた奴らはみんな私を四世としか見てこなかった。でもコイツはそんな目で見ない。

子供の私には目を見ただけで相手の心の奥底なんてわからない。ほんとはこいつも私を利用しようと思ってるのかもしれない。

けど・・・なんとなく違う気がした・・・ほんとにただなんとなく・・・

口をはさむことも、励ますこともせずコイツはただずっと側で話を聞いてるだけだった。

そのことが私の気持ちを軽くした。

励まされてたりしたら私は「お前になにがわかるっ!!」ってキレてたかもしれないから・・・

そのせいだろうか、少しくらいコイツ 黒川 夕 を信用してもい

いとおもったのは。

s
i
d
e

o
u
t

2 話（後書き）

シリアスって難しいですね。
こんなんでいいのか激しく不安

3話（前書き）

短いですが・・・

3話

理子の話が終わり、俺も何を話していいのかわからず、俺達の間には気まずい雰囲気がただよっていた。

すると、ふと俺は店の外から視線を感じることに気がついた。

・・・数は二人、いや二匹か？

「おい、一旦ここぞでぞ」

「えっ、どうして？」

「どうしてもだ」

そう言うと理子は不満そうな顔で「まだ残ってるのに・・・」とぼやきつつ一足先に店をでた俺について来た。

その後、なんで店を出たのかしつこく聞いてくる理子を軽くあしら

いつつ、森へと向かい、背後の視線に軽く意識を向けた。

・・・ついて来るってことは、やっぱり俺達を監視してるみたいだな。

狙いは俺のわけないし・・・
やっぱり理子か・・・

そう考えた俺は素早くハーデイスを取り出し

バンッバンッ

二発の弾丸を放った。

「きゃっ!?!」

「「ぎゃうっ」「」

理子が軽く声を上げたのとは別に、二匹の獣の声が聞こえた。

・・・どうやら玉は二発とも命中したみたいだな。

「なにするんだ!!」

「ほれ、あれ見てみる。」

急に近くで発砲されてキレる理子に理由の説明もかねて、今当てた獣を指差した。

どうやらオオカミだったらしい・・・

そこには2mはあろうかてゆう綺麗な銀色の毛並みをしたオオカミが横たわっていた。

「あれは・・・ブラドの手下のオオカミだつ!!」
くそっ! アイツもう追っ手を出してきたのかっ!!」

理子がいっには、コイツはコーカサスハクギンオオカミという種類でブラドの手下らしい。
どうやらブラドには人間の手下という者がおらず、基本自分の手下のオオカミに偵察や監視などを任せるそうだ。

じゃあなぜ、それを知っててお前は最初俺を殴ったし・・・
まあ、そんなこと考えてる余裕なんてなかったんたるうけど・・・

なんか納得いかねー

「それじゃあ、早くこの町から出ようぜ。
どこか行くあてあるのか？」

「あることにはあるんだけど・・・
てっ！ついて来てくれるのか！？」

「まあな。俺もこれから何しようか迷ってたところだし、これも何か
の縁だろうしな。
それにこんな所に幼女おいてくほど腐ってるつもりはねーよ。」

「そうか／＼・・・ありがとう／＼/
って、幼女っていうな！！」

顔を真っ赤にして俯いたと思ったなら、いきなり怒り出す理子。
それに驚きながらも俺は再び、何処へ行くつもりなのか聞いた。

「私はすぐにも力をつけて強くないといけないから・・・
だから、とりあえずドイツにあるっていう『イ・ウー』っていう組
織に行ってみようと思う。」

その組織は世界中から天武の才があるやつらが集まって、技術を伝
えあい最強を目指してる組織みたいなんだ。そこに行けば私でもつ
よくなれるとおもっから・・・」

「でも、その組織は国家機密レベルの組織らしくって、組織を知ってるだけでも身に危険がおよぶらしい・・・
それでも、ついて来てくれる？」

「そういうのは話す前に言えよ、と思ったが言わない方がいいんだろーなー」

「もちろん、男に二言はねーよ。」

「そんなに大きな組織なら強い奴もいっぱいいるだろ？
自分がどれほど通用するか試したいしな。」

「そう・・・ありがと、『ユー』」

そう言っていると理子は、出会って初めて眩しい笑顔を見せてくれた。

G O F o r T h e N e x t ! ! !

3 話（後書き）

理子がイ・ウーのことをなぜか知ってるのもご都合主義です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6627z/>

緋弾のアリア イ・ウーの時の番人

2011年12月25日13時46分発行